

3.

岩手県民製作の長編アニメ映画「アテルイ」に今の時代を重ねて



2004. 1. 10. aterui.htm by Mutsu Nakanishi



岩手県北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち ここは北上」
と誇らしく歌う

この「鬼」とは古代「日高見(北上)川」沿いのこの地に住んだ自分たちの祖先 蝦夷の族長 日高見の鬼「アテルイ」とその一族 蝦夷 を指す

そんな思いの岩手県の人達が一昨年製作した市民長編アニメ映画「アテルイ」がある盛岡在住の高橋克彦氏のすごい迫力の大著小説「火怨」をベースに作られた映画である一度 見たいと思いつながら実現できなかったのですが、DVD・ビデオ販売されているのを知ってやっと見る事が出来ました

2004. 1. 6. 朝日新聞朝刊「opinion news project」欄に論説副主幹 桐村英一郎氏「いらちの小憩 森を守ろう」と題して次のような一文が掲載された。

森、山、そして自然に宿る神々が昨今、注目をあつめるのはなぜだろう。

(中略)

経済も科学も文化も右肩上がり伸びるといふ史観は「稲作と金属器、国家統合の原理というハード、ソフト両面のハイテク」が日本に持ち込まれた弥生時代から始まったのかも知れない。

目標感覚が狂い、不安にかられた日本人の中で自然を畏怖し、その恩恵に生きて遠い過去の「血」がさわぎはじめたのではないか

弥生時代から続いた自然支配の文明が行き詰まっている。

世界は縄文文化に回帰せねばならない」というのは哲学者の梅原猛さんである。

(中略)

ここで私たちが当惑し、立ち止まることは決して無駄なことではない。

血の中に受け継いだ自然と共生した時代に思いをいたし、小さくとも今できる行動をする。

そんな年にしたいものだ。

2004. 1. 6. 朝日新聞朝刊「opinion news project」欄

論説副主幹 桐村英一郎氏「いらちの小憩 森を守ろう」より

ぼくの受け止めは 縄文を体現できる東北の楽しさと現地へ出かけて色々得た実感の数々。
さらに使い古された言葉ではあるが、「歴史を振り返るもよし」 自然への回帰 風来坊はやめられぬと・・・。
また、やっとみつけた 岩手県の市民製作 長編アニメ映画 「アテルイ」の姿をこの文にかさねていました。

東北に通って「和鉄」について歩いているうちに 『日高見(北上)の鬼』と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人達が親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯感にビックリ。
アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦の小説「火怨」。

吉川栄治文学賞を受賞した大著で、時代を感じさせない凄い迫力がある。

これが 東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案。

東北人で語られてきた蝦夷観 田村麻呂と蝦夷との交流ほか当時の東北の事情をよく現しているとともに現代を生きる知恵も・・・・・・・・。

2003. 1. 10. MutsuNakanishi



岩手県北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち ここは北上」
と誇らしく歌う

この「鬼」とは古代「日高見(北上)川」沿いのこの地に住んだ自分たちの祖先 蝦夷の族長 日高見の鬼「アテルイ」とその一族 蝦夷 を指す

今から約 1200 年前 奈良時代の末期から平安時代初期にかけて坂上田村麻呂を征夷大將軍とした蝦夷征伐があった。

坂上田村麻呂がでるまで、朝廷が苦しめられ続けた蝦夷の族長が「アテルイ」

この蝦夷征伐のもうひとつの側面は今まで輸入に頼っていた「金やくろがね」がこの蝦夷の支配地ででたことによる鉱物資源の支配

朝廷の蝦夷征伐の大軍を苦しめぬいた蝦夷の族長がアテルイ。

蝦夷の心情に共感しつつも戦わねばならなかった征夷大將軍坂上田村麻呂

長年にわたる戦争の中で、アテルイは蝦夷の和平を願い、盟友・モレと約500人の兵とともに田村麻呂に降伏。

坂上田村麻呂の「蝦夷支配に活用できる人材」と助命嘆願もむなしく、アテルイは河内国で斬首。



● 古代東北の動き

- ▽710 (和銅3) 年 平城京遷都
- ▽724 (神亀1) 年 朝廷が、東北制圧の拠点・多賀城 (宮城県多賀城市) 造営
- ▽767 (神護景雲1) 年 伊治城 (宮城県築館町) 造営
- ▽774 (宝亀5) 年 蝦夷の抵抗始まる
- ▽786 (延暦5) 年 朝廷軍が胆沢攻撃へ
- ▽789 (延暦8) 年 続日本紀に阿弼流為 (アテルイ) の名が登場。
朝廷軍5万2800人が第1回胆沢攻撃。
アテルイ率いる蝦夷が北上川東岸の巢伏村で対戦。
ゲリラ戦で朝廷軍に歴史的勝利
- ▽793 (延暦12) 年 坂上田村麻呂が約10万人の兵を率いて第2回胆沢攻撃。
アテルイ軍、大打撃を受ける
- ▽801 (延暦20) 年 朝廷軍が第3回胆沢攻撃。アテルイ軍、力尽く。朝廷軍が胆沢制圧
- ▽802 (延暦21) 年 田村麻呂が蝦夷支配の拠点・胆沢城 (水沢市) を造営。
アテルイ、モレと蝦夷約500人が田村麻呂に降伏。
アテルイとモレ、河内国 (大阪府枚方市付近) で斬首される
- ▽803 (延暦22) 年 志波城 (盛岡市) 造営
- ▽811 (弘仁2) 年 徳丹城 (矢巾町) 造営

坂上田村麻呂を信じ 更なる騒乱による犠牲と荒廃をさけ、自ら投降し平和共存を願
「50年 100年先を見て その中での平和な暮らしの為に」
「子供には 戦いを教えるな 戦わせるな」
と恒久の平和共存を貫く

「アテルイは親、兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。」

21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」と東北の人達はメッセージを送る。

話を聞くにつれ、今日本人が忘れかけている人物に出会ったような気がしていました。
ビックリするほど1200年前の構図と同じ鉱物資源を狙った大国支配の構図と弱者支配の眼
現在のイラク戦争の大国主義の構図がそっくりそのまま当てはまるような気がしてなりません。
賛否は別にして 現在の「高速道路公団民営化」の構図も
中央・官僚と地方同じではないか……
……等々。

【参考】

巨大勢力となった寺から逃れる為、奈良平城京から平安京へ遷都されたこの時代。東寺・西寺しか許されなかった平安京に蝦夷の制圧に成功した坂上田村麻呂は国家加護の道場として清水寺の建立を許されている。

東北にある蝦夷の勢力の強さがこのことから推察される。

また、坂上田村麻呂の頭の中に蝦夷の族長「アテルイ」への思いがあったかも知れぬ。その背後の東山 坂上田村麻呂が葬られた地には「将軍塚」の名前が今も残されている。東北の地にも、大將軍 將軍通りなどの地名が今も残る。



なお、京都 坂上田村麻呂の建立した清水寺には当代になって関西アテルイ顕彰会など市民団体の手によって アテルイ・モレの碑が田村麻呂・アテルイ友情のしるしとして建立された。

【 「和鉄の道」 関 連 】

リンクアドレスに変更した新しいリンクアドレスが隠れています

- 和鉄の道Ⅱ 8. 岩手県北上川流域の和鉄 一関博物館へ
蝦夷の主要武器「蕨手刀」・日本刀のルーツ「舞草刀」を訪ねて
<http://www.ne.jp/asahi/mutsuo/nakanishi/jstlbb08.htm>
- 和鉄の道Ⅲ 5. 古代 出羽国 秋田 和鉄の道を訪ねて
北上川流域の陸奥から奥羽山脈越 出羽・秋田そして津軽十三湊へ
奥羽山脈越えの和鉄の道は蝦夷の生命線
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/kdiaktaa00.htm>
- 和鉄の道Ⅲ 6. 奥州 蝦夷の心臓部を貫く和鉄の道
-北上(和賀)仙人峠越-
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/wgasen00.htm>
- 和鉄の道Ⅲ 8. 心残りだった東北 和鉄のふるさと walk
北上江釣子・砂鉄川・蔵王
「あの高嶺 鬼住む誇り・・・・・・ 北上市市民憲章 」と歌う
東北 鉄の山 気にかかっていた「和鉄のさと」を歩いてー
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/0307ttohoku.htm>

和鉄の道Ⅰ <http://www.infokkna.com/ironroad/book/bookiron2001.pdf>

和鉄の道Ⅱ <http://www.infokkna.com/ironroad/book/bookiron2002.pdf>

和鉄の道Ⅲ <http://www.infokkna.com/ironroad/book/bookiron2003.pdf>